

## 2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2023年10月31日

東

上場会社名 株式会社ZOZO 上場取引所  
コード番号 3092 URL https://corp.zozo.com  
代表者(役職名) 代表取締役社長兼CEO(氏名) 澤田 宏太郎  
問合せ先責任者(役職名) 取締役副社長兼CFO(氏名) 柳澤 孝旨 (TEL) 043(213)5171  
四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 2023年11月27日  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	90,217	7.7	28,931	6.3	29,104	6.1	20,314	6.5
2023年3月期第2四半期	83,767	9.9	27,210	14.4	27,433	15.5	19,067	15.3

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 20,578百万円(6.6%) 2023年3月期第2四半期 19,295百万円(16.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	67.73	—
2023年3月期第2四半期	63.60	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	158,452	85,326	53.8
2023年3月期	155,742	76,693	49.2

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 85,176百万円 2023年3月期 76,556百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	24.00	—	41.00	65.00
2024年3月期	—	49.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	49.00	98.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

## 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	200,700	9.4	60,000	6.3	60,000	5.8	42,000	6.3	140.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2024年3月期2Q	311,644,285株	2023年3月期	311,644,285株
2024年3月期2Q	11,563,454株	2023年3月期	11,787,504株
2024年3月期2Q	299,947,287株	2023年3月期2Q	299,819,404株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料8ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は、2023年10月31日に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。その模様及び説明内容については、当日使用する決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	7
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	8
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	9
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	15
(継続企業の前提に関する注記)	15
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	15

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当期の経営成績

[表1] 前年同期比

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	前年同期比
商品取扱高	251,138 (110.4%)	258,791 (107.1%)	3.0%
商品取扱高 (その他商品取扱高除く)	227,481 (100.0%)	241,644 (100.0%)	6.2%
売上高	83,767 (36.8%)	90,217 (37.3%)	7.7%
売上総利益	78,906 (34.7%)	84,213 (34.9%)	6.7%
営業利益	27,210 (12.0%)	28,931 (12.0%)	6.3%
経常利益	27,433 (12.1%)	29,104 (12.0%)	6.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	19,067 (8.4%)	20,314 (8.4%)	6.5%

( )内は商品取扱高(その他商品取扱高除く)に対する割合です。

当社グループは、「世界中をカッコよく、世界中に笑顔を。」という企業理念のもと、日本最大級のファッションECサイト「ZOZOTOWN」、及びファッションメディア「WEAR」の運営を中心に事業活動を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、資源・原材料価格の高騰や円安の進行等による物価上昇が続き、経済の先行きが不透明な状況である一方で、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限の緩和等に伴う外出機会の増加ならびに洋服に対する需要の増加により、アパレル業界(特にオフライン)が活気づいた市況となりました。

この状況下で当社グループは、ZOZOTOWNにおいてはユニークユーザー数拡大及びコンバージョンレート(ユニークユーザーの購買率)向上を目指し、ユーザーとブランド双方にとって魅力的なサイト作りに一層注力してまいりました。具体的には、5月及び9月にセールイベント「ZOZOWEEK」の実施(2023年5月12日～21日の10日間、同年9月12日～18日及び9月21日～24日の11日間)ならびに夏の本セール開始期間にはTVCMを放送し集客を強化する等、ZOZOTOWNにおける販売力の最大化に取り組みました。加えて、引き続き多様化するユーザーニーズに対応できるよう幅広いジャンルの新規ブランドの出店も進めてまいりました。カテゴリー強化の取り組みとしては、コスメカテゴリー強化を図る「ZOZOCOSME」に注力しております。ZOZOCOSMEは2023年9月末時点において国内外の700以上のコスメブランドを取り扱っておりますが、商品取扱高拡大のため、更に積極的な新規ブランドの誘致及びラインナップの拡大を進めてまいります。また、当社ならではの付加価値提供としては、当社独自のAIを活用した超パーソナルスタイリングサービス「niaulab(似合うラボ)」を開始する等、購買の上流にアプローチする「似合う」を軸としたソリューションの提供を目指しています。

Yahoo!ショッピング(2022年10月にPayPayモールを吸収し統合)については、前連結会計年度までに獲得した顧客の定着に加え、モールを運営するLINEヤフー(株)による「本気のZOZO祭」(2023年6月25日、同年9月18日)等の販促施策投下により、売上を伸ばさせております。

BtoB事業については、前連結会計年度に複数ブランドの支援終了があったものの、支援を継続しているブランド各社においては自社ECサイト活用の積極化が続いている状況です。

また、今後の商品取扱高拡大を見据え、2023年8月より新物流拠点「ZOZOBASEつくば3」の稼働を開始いたしました。当拠点は、延床面積や商品保管数等の設備能力は当社内で最大規模であり、将来的な労働人口の減少傾向等に向けた対応策として国内初となる最新機器を導入する等の積極的な設備投資を行い、業務の自動化による省人化を目指しております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における商品取扱高は258,791百万円(前年同期比3.0%増)、その他商品取扱高を除いた商品取扱高は241,644百万円(同6.2%増)となりました。売上高は90,217百万円(同7.7%増)、売上総利益は84,213百万円(同6.7%増)となりました。売上総利益の商品取扱高(その他商品取扱高除く)に対する割合(粗利率)は34.9%となり、前年同期と比較して0.2ポイント上昇いたしました。

売上高については、前年同期比でポイント等費用が増加した一方で、商品取扱高に対する売上高比率が高い買取・製造販売とUSED販売及び広告事業の成長ならびに送料収入の増加等に伴うその他売上高の増加が主な要因とな

り、前年同期比で商品取扱高（その他商品取扱高除く）の成長率を上回る伸び率となりました。

粗利率上昇の主な要因は、売上高について記載の通り、前年同期比でポイント等費用が増加した一方で、買取・製造販売とUSED販売及び広告事業の成長ならびに送料収入の増加等に伴いその他売上高が増加した事になります。

販売費及び一般管理費は55,282百万円（前年同期比6.9%増）、商品取扱高（その他商品取扱高除く）に対する割合は22.9%と前年同期と比較して0.2ポイント上昇しております。前年同期比で販管費率が上昇している主な理由は以下のとおりです。なお、以下の対商品取扱高比は、各販管費項目を商品取扱高（その他商品取扱高除く）で除した結果となります。

・上昇（悪化）要因

- ① TVCM・WEB広告等の投下量増加に伴い広告宣伝費（対商品取扱高）が0.4ポイント上昇。
- ② 新物流拠点稼働開始に伴い賃借料（対商品取扱高）が0.1ポイント上昇。
- ③ 新物流拠点稼働に伴うマテハン機器等の償却開始により、減価償却費（対商品取扱高）が0.1ポイント上昇。

・低下（改善）要因

出荷単価が前期実績を上回った事により、荷造運賃（対商品取扱高）が0.4ポイント低下。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の営業利益は28,931百万円（前年同期比6.3%増）、営業利益率は対商品取扱高（その他商品取扱高除く）比12.0%と前年同期並となりました。また、経常利益は29,104百万円（同6.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は20,314百万円（同6.5%増）となりました。

なお、当社グループはEC事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しておりますが、単一セグメント内の各事業区分の業績を以下のとおり示しております。

各事業別の業績は、以下のとおりです。

[表2] 事業別前年同期比

事業別	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)			当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)			取扱高 前年同期比 (%)	売上高 前年同期比 (%)
	取扱高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	取扱高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)		
ZOZOTOWN事業	197,444	78.6	62,194	211,749	81.8	66,234	7.2	6.5
（買取・製造販売）	1,790	0.7	1,735	2,360	0.9	2,260	31.8	30.3
（受託販売）	188,859	75.2	53,771	201,627	77.9	56,389	6.8	4.9
（USED販売）	6,795	2.7	6,687	7,761	3.0	7,584	14.2	13.4
Yahoo!ショッピング	22,739	9.1	6,661	23,265	9.0	6,920	2.3	3.9
BtoB事業	7,296	2.9	1,258	6,629	2.6	1,092	△9.2	△13.2
広告事業	—	—	3,493	—	—	4,273	—	22.3
その他除く 小計	227,481	90.6	73,608	241,644	93.4	78,521	6.2	6.7
その他	23,657	9.4	10,159	17,146	6.6	11,696	△27.5	15.1
合計	251,138	100.0	83,767	258,791	100.0	90,217	3.0	7.7

① ZOZOTOWN事業

ZOZOTOWN事業は、「買取・製造販売」「受託販売」「USED販売」の3つの事業形態で構成されております。「買取・製造販売」は当社グループが仕入れを行い、在庫リスクを負担し販売を行う事業形態になります。各ブランドからファッション商材を仕入れる形態と、MS（マルチサイズ）等、当社グループが商材を発注する形態がこちらに該当します。「受託販売」は各ブランドの商品を受託在庫として預かり、受託販売を行っております。「USED販売」は主に個人ユーザー等から中古ファッション商材を買取り、販売を行っております。新品商品購入促進のための付加価値サービスと位置付けております。

当社では、ZOZOTOWN事業を持続的に成長させていくためには「購入者数の拡大」及び「ファッション消費におけるZOZOTOWN利用率上昇」が重要なファクターであると認識しております。そのために、ユーザーとブランド双方に

とって魅力的なサイト作りに取り組んでおります。

なお、ZOZOTOWN事業に係る主なKPIの推移は以下のとおりです。

(ショップ数等)

[表3] ショップ数、ブランド数の推移

	前連結会計年度				当連結会計年度			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
ZOZOTOWN出店ショップ数(注)1	1,523	1,532	1,554	1,562	1,564	1,581	—	—
内) 買取・製造販売(注)2	25	27	28	28	28	29	—	—
受託販売	1,498	1,505	1,526	1,534	1,536	1,552	—	—
ブランド数(注)1、2	8,512	8,455	8,545	8,455	8,981	8,940	—	—

(注) 1 四半期会計期間末日時点の数値を使用しております。

2 プライベートブランド「ZOZO」及び「マルチサイズ」は含んでおりません。

当第2四半期連結会計期間に新規出店したショップ数は34ショップ(純増17ショップ)となりました。主な新規出店ショップは、株式会社良品計画が運営する「無印良品」、イタリア・ミラノのラグジュアリーブランド「VERSACE」、コスメブランドでは、日本ロレアル株式会社が展開する「PRADA BEAUTY」、資生堂ジャパン株式会社の「LAURA MERCIER」です。

(年間購入者数)

[表4] 年間購入者数の推移

	前連結会計年度				当連結会計年度			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
年間購入者数(注)2	10,619,934	10,859,876	11,211,383	11,411,712	11,470,592	11,552,764	—	—
(前年同期比)	889,772	969,092	1,108,032	993,381	850,658	692,888	—	—
(前四半期比)	201,603	239,942	351,507	200,329	58,880	82,172	—	—
アクティブ会員数(注)3	9,269,080	9,545,087	9,935,769	10,192,333	10,352,251	10,515,910	—	—
(前年同期比)	902,007	1,037,090	1,223,890	1,149,139	1,083,171	970,823	—	—
(前四半期比)	225,886	276,007	390,682	256,564	159,918	163,659	—	—
ゲスト購入者数	1,350,854	1,314,789	1,275,614	1,219,379	1,118,341	1,036,854	—	—
(前年同期比)	△12,235	△67,998	△115,858	△155,758	△232,513	△277,935	—	—
(前四半期比)	△24,283	△36,065	△39,175	△56,235	△101,038	△81,487	—	—

(注) 1 集計期間は会計期間末日以前の直近1年間としております。

2 年間購入者数は過去1年以内に1回以上購入したアクティブ会員数とゲスト購入者数の合計です。

3 アクティブ会員数は過去1年以内に1回以上購入した会員数になります。

4 「Yahoo!ショッピング」は含んでおりません。

当第2四半期連結会計期間において、アクティブ会員数が前年同期比及び前四半期比でそれぞれ増加したことにより、年間購入者数も増加いたしました。アクティブ会員数の増加は、前連結会計年度に新規獲得した会員の定着に加え、2023年5月のZOWEEK開催期間ならびに同年6月開始の夏の本セール期間においてTVCM放送ならびにWEB上の広告等により集客を強化したことが要因です。ゲスト購入者数は、会員向けサービスの充実により、引き続き前年同期比及び前四半期比で減少傾向にあります。

(年間購入金額及び年間購入点数)

[表5] 年間購入金額、年間購入点数の推移

	前連結会計年度				当連結会計年度			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
年間購入金額(全体) (注)1、2、3、4	42,559	42,401	42,331	42,224	42,341	42,403	—	—
(前年同期比)	0.5%	0.1%	△0.5%	△0.4%	△0.5%	0.0%	—	—
(前四半期比)	0.4%	△0.4%	△0.2%	△0.3%	0.3%	0.1%	—	—
年間購入点数(全体) (注)1、2、3	11.6	11.4	11.1	10.9	10.8	10.8	—	—
(前年同期比)	1.5%	△1.4%	△4.5%	△5.9%	△6.6%	△5.3%	—	—
(前四半期比)	0.0%	△1.8%	△2.3%	△1.8%	△0.8%	△0.4%	—	—
年間購入金額(既存会員) (注)1、2、3、4	49,407	49,331	49,336	48,716	48,856	48,752	—	—
(前年同期比)	0.3%	0.6%	0.6%	△1.1%	△1.1%	△1.2%	—	—
(前四半期比)	0.3%	△0.2%	0.0%	△1.3%	0.3%	△0.2%	—	—
年間購入点数(既存会員) (注)1、2、3	13.4	13.2	12.9	12.6	12.5	12.3	—	—
(前年同期比)	1.3%	△0.9%	△3.4%	△6.4%	△7.2%	△6.4%	—	—
(前四半期比)	△0.3%	△1.9%	△1.8%	△2.7%	△1.1%	△1.1%	—	—

(注) 1 集計期間は会計期間末日以前の直近1年間としております。

2 アクティブ会員1人当たりの指標となっております。

3 「Yahoo!ショッピング」は含んでおりません。

4 円単位となっております。

当第2四半期連結会計期間において、全体の年間購入金額は前年同期比・前四半期比ではほぼ横ばい、全体の年間購入点数は前年同期比・前四半期比で減少いたしました。商品単価の上昇に伴う購入点数の減少があったものの、それを商品単価の上昇圧力が上回り年間購入金額はほぼ横ばいとなっております。既存会員においても、全体同様の理由で前年同期比・前四半期比で年間購入金額は微減、年間購入点数は減少いたしました。

(平均商品単価等)

[表6] 平均商品単価、平均出荷単価、出荷件数の推移

	前連結会計年度				当連結会計年度			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
平均商品単価 (注)1、2、3	3,552	3,487	4,438	3,987	3,726	3,590	—	—
(前年同期比)	1.8%	6.8%	6.5%	6.3%	4.9%	3.0%	—	—
平均出荷単価 (注)1、2、3	7,699	7,566	8,961	8,300	8,177	7,894	—	—
(前年同期比)	2.6%	3.0%	4.3%	4.1%	6.2%	4.3%	—	—
1注文あたり購入点数 (注)1、3	2.17	2.17	2.02	2.08	2.19	2.20	—	—
(前年同期比)	0.9%	△3.6%	△2.1%	△2.1%	1.3%	1.3%	—	—
出荷件数(注)1、3	13,123,988	12,742,183	14,178,195	13,379,524	13,240,721	13,107,431	—	—
(前年同期比)	8.6%	7.8%	8.6%	4.5%	0.9%	2.9%	—	—

(注) 1 四半期会計期間の数値を使用しております。

2 円単位となっております。

3 「Yahoo!ショッピング」は含んでおりません。

当第2四半期連結会計期間の平均商品単価につきましては、前年同期比で増加いたしました。一部の商品の定価の上昇ならびにセール商材の割引率が減少した事が主な要因です。平均出荷単価については、平均商品単価が増加した影響に加え、1注文あたりの購入点数が増加した影響で、前年同期比で平均商品単価の伸び率を上回って増加いたしました。1注文あたりの購入点数が増加したのは、1万円以上の購入で送料無料となる送料無料施策の投下量が前年同期比で増加したため、同施策実施日の合わせ買いの割合が上昇したことが主な要因です。



## i. 買取・製造販売

当第2四半期連結累計期間の商品取扱高は2,360百万円（前年同期比31.8%増）、商品取扱高に占める割合は0.9%（前年同期実績0.7%）となりました。売上高は2,260百万円（前年同期比30.3%増）となりました。2023年9月末現在、買取・製造販売のZOZOTOWN出店ショップは29ショップ（2023年6月30日末28ショップ）を運営しております。

## ii. 受託販売

当第2四半期連結累計期間の商品取扱高は201,627百万円（前年同期比6.8%増）、商品取扱高に占める割合は77.9%（前年同期実績75.2%）となりました。売上高（受託販売手数料）は56,389百万円（前年同期比4.9%増）となりました。2023年9月末現在、受託販売のZOZOTOWN出店ショップは1,552ショップ（2023年6月30日末1,536ショップ）を運営しております。

## iii. USED販売

当第2四半期連結累計期間の商品取扱高は7,761百万円（前年同期比14.2%増）、商品取扱高に占める割合は3.0%（前年同期実績2.7%）となりました。売上高は7,584百万円（前年同期比13.4%増）となりました。

## ② Yahoo!ショッピング

LINEヤフー(株)が運営するオンラインショッピングモール「Yahoo!ショッピング」へZOZOTOWNを出店しております。当第2四半期連結累計期間の商品取扱高は23,265百万円（前年同期比2.3%増）、商品取扱高に占める割合は9.0%（前年同期実績9.1%）となりました。売上高（受託販売手数料）は6,920百万円（前年同期比3.9%増）となりました。

## ③ BtoB事業

BtoB事業では、ブランドの自社ECサイトの構築及び運営・物流業務を受託しております。当第2四半期連結累計期間の商品取扱高は6,629百万円（前年同期比9.2%減）、商品取扱高に占める割合は2.6%（前年同期実績2.9%）となりました。売上高（受託販売手数料）は1,092百万円（前年同期比13.2%減）となりました。2023年9月末現在、受託サイト数は34サイト（2023年6月30日末35サイト）となっております。

## ④ 広告事業

広告事業は、ZOZOTOWN及びWEARのユーザーリーチ基盤を活用し、主に取引先ブランド各社に広告枠を提供し、広告収入を得る事業形態となります。当第2四半期連結累計期間の売上高は4,273百万円（前年同期比22.3%増）となりました。

WEARについては、引き続きユーザーの拡大及びコンテンツの拡充に注力しております。

## ⑤ その他

その他商品取扱高には、Yahoo!ショッピングにおけるZOZOTOWN店を除いたファッションカテゴリーストアのうち、ZOZOオプション（当社提案をもとにYahoo!ショッピング内で実施する特集企画への参加等の営業支援の恩恵を受ける事が出来るサービス）の契約を結んだストアの流通総額、当社連結子会社の自社ECサイトにおける流通総額、ZOZOTOWNからオフライン店舗への送客をする仕組み「ZOZOMO」を経由した流通総額及び米国で有料販売をしている「ZOZOSUIT」の流通総額を計上しております。当第2四半期連結累計期間のその他商品取扱高は17,146百万円、商品取扱高に占める割合は6.6%（前年同期実績9.4%）となりました。その他売上高には、ZOZOTOWN事業に付随した事業の売上（送料収入、決済手数料収入等）及び前述のその他商品取扱高に関連した売上等が計上されており、当第2四半期連結累計期間のその他売上高は11,696百万円（前年同期比15.1%増）となりました。



## (2) 財政状態に関する説明

## ① 資産、負債及び純資産の状況

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当第2四半期連結会計期間	増減率
総資産	155,742	158,452	1.7%
負債	79,048	73,125	△7.5%
純資産	76,693	85,326	11.3%

## (総資産)

総資産については、前連結会計年度末に比べ2,710百万円増加（前連結会計年度末比1.7%増）し、158,452百万円となりました。流動資産は、前連結会計年度末に比べ1,003百万円減少（同0.8%減）し、122,489百万円となりました。主な増減要因としては、現金及び預金の減少1,077百万円、売掛金の減少3,084百万円、商品及び製品の増加986百万円などによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ3,713百万円増加（同11.5%増）し、35,962百万円となりました。主な増減要因としては、有形固定資産の増加3,605百万円、のれんの減少192百万円、投資その他の資産の減少175百万円などによるものであります。

## (負債)

負債については、前連結会計年度末に比べ5,922百万円減少（前連結会計年度末比7.5%減）し、73,125百万円となりました。流動負債は、前連結会計年度末に比べ8,108百万円減少（同11.2%減）し、64,095百万円となりました。主な減少要因としては、受託販売預り金の減少2,536百万円、未払法人税等の減少1,080百万円、賞与引当金の減少1,769百万円などによるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ2,185百万円増加（同31.9%増）し、9,029百万円となりました。主な増加要因としては、資産除去債務の増加1,746百万円、退職給付に係る負債の増加342百万円などによるものであります。

## (純資産)

純資産については、前連結会計年度末に比べ8,632百万円増加（前連結会計年度末比11.3%増）し、85,326百万円となりました。主な増減要因としては、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加20,314百万円、剰余金の配当による減少12,294百万円などによるものであります。

## ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末から1,053百万円減少し、73,091百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とその要因は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	増減率
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,605	15,605	0.0%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,896	△4,604	18.2%
財務活動によるキャッシュ・フロー	△10,630	△12,077	13.6%

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は15,605百万円となりました。主な増加要因としては、税金等調整前四半期純利益29,103百万円の計上などによるものであります。一方、主な減少要因としては受託販売預り金の増加額2,536百万円、法人税等の支払額9,124百万円があったことなどによるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は4,604百万円となりました。これは有形固定資産の取得による支出3,305百万円があったことなどによるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は12,077百万円となりました。これは配当金の支払額12,291百万円があったことなどによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期配当予想につきまして、2023年4月27日公表の予想を修正いたしました。詳細は、本日別途公表いたしました「2024年3月期配当予想の修正及び剰余金の配当（中間配当）に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、2024年3月期の連結業績予想につきましては、2023年4月27日公表の予測数値に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	69,126	68,048
売掛金	42,994	39,910
有価証券	5,000	5,000
商品及び製品	3,155	4,141
原材料及び貯蔵品	49	52
その他	3,166	5,336
流動資産合計	123,493	122,489
固定資産		
有形固定資産	18,796	22,402
無形固定資産		
のれん	1,700	1,507
その他	680	1,156
無形固定資産合計	2,381	2,664
投資その他の資産	11,070	10,895
固定資産合計	32,248	35,962
資産合計	155,742	158,452
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	532	589
受託販売預り金	25,590	23,053
短期借入金	20,400	20,500
未払法人税等	9,796	8,716
賞与引当金	2,401	632
役員賞与引当金	78	59
その他	13,404	10,545
流動負債合計	72,204	64,095
固定負債		
退職給付に係る負債	4,389	4,732
資産除去債務	2,248	3,994
その他	205	302
固定負債合計	6,844	9,029
負債合計	79,048	73,125

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,359	1,359
資本剰余金	1,349	1,328
利益剰余金	118,620	126,037
自己株式	△44,558	△43,571
株主資本合計	76,771	85,153
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	39	85
繰延ヘッジ損益	40	124
為替換算調整勘定	92	171
退職給付に係る調整累計額	△386	△358
その他の包括利益累計額合計	△214	22
新株予約権	18	4
非支配株主持分	117	145
純資産合計	76,693	85,326
負債純資産合計	155,742	158,452

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
売上高	83,767	90,217
売上原価	4,860	6,003
売上総利益	78,906	84,213
販売費及び一般管理費	51,696	55,282
営業利益	27,210	28,931
営業外収益		
受取利息	4	2
受取賃借料	1	1
為替差益	45	100
業務支援料	5	6
リサイクル収入	15	15
補助金収入	18	1
ポイント失効益	59	51
貸倒引当金戻入益	171	51
その他	23	30
営業外収益合計	345	261
営業外費用		
支払利息	39	39
貸倒引当金繰入額	7	—
支払賃借料	1	1
支払手数料	6	—
投資事業組合運用損	68	46
営業外費用合計	122	87
経常利益	27,433	29,104
特別利益		
固定資産売却益	—	4
特別利益合計	—	4
特別損失		
固定資産除売却損	27	5
特別損失合計	27	5
税金等調整前四半期純利益	27,406	29,103
法人税、住民税及び事業税	6,162	8,099
法人税等調整額	2,207	662
法人税等合計	8,370	8,762
四半期純利益	19,035	20,341
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△31	27
親会社株主に帰属する四半期純利益	19,067	20,314

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	19,035	20,341
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	50	46
繰延ヘッジ損益	130	83
為替換算調整勘定	59	78
退職給付に係る調整額	19	27
その他の包括利益合計	259	237
四半期包括利益	19,295	20,578
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	19,326	20,551
非支配株主に係る四半期包括利益	△31	27



## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	27,406	29,103
減価償却費	938	1,148
のれん償却額	212	192
株式報酬費用	45	107
貸倒引当金繰入額	7	—
貸倒引当金戻入額	△171	—
投資事業組合運用損益 (△は益)	68	46
固定資産除売却損益 (△は益)	27	1
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,177	△1,770
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△25	△19
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	317	382
事業整理損失引当金の増減額 (△は減少)	△201	—
受取利息及び受取配当金	△4	△2
支払利息	39	39
支払手数料	6	—
為替差損益 (△は益)	△44	△57
売上債権の増減額 (△は増加)	1,534	3,086
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,095	△948
前払費用の増減額 (△は増加)	△746	△2,067
仕入債務の増減額 (△は減少)	△72	50
受託販売預り金の増減額 (△は減少)	△1,716	△2,536
未払金の増減額 (△は減少)	△1,034	△1,323
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△1,056	△1,172
その他	△215	505
小計	23,044	24,765
利息及び配当金の受取額	3	4
利息の支払額	△39	△40
法人税等の支払額	△7,402	△9,124
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,605	15,605
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△3,415	△3,305
無形固定資産の取得による支出	△294	△577
敷金及び保証金の回収による収入	22	2
敷金及び保証金の差入による支出	△53	△37
投資有価証券の取得による支出	△314	△56
関係会社出資金の払込による支出	△13	△291
関係会社株式の取得による支出	—	△71
貸付けによる支出	△1	△56
貸付金の回収による収入	173	54
その他	0	△263
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,896	△4,604

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	180
長期借入れによる収入	184	167
短期借入金の返済による支出	—	△80
長期借入金の返済による支出	△24	△34
自己株式の取得による支出	△0	—
自己新株予約権の取得による支出	—	△17
配当金の支払額	△10,790	△12,291
財務活動によるキャッシュ・フロー	△10,630	△12,077
現金及び現金同等物に係る換算差額	166	21
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,246	△1,053
現金及び現金同等物の期首残高	65,520	74,145
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	121	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	66,888	73,091

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。